

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103292
法人名	有限会社 託老所あんき
事業所名	グループホームこんまい「あんき」
所在地	松山市西垣生町1680-1 (電話)089-971-3318
自己評価作成日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「一つ屋根の下、明るく生き生きと暮らし、大家族のような雰囲気の中一人ひとり利用者さんがその人らしく最後まで生活できるように支援援助する。」

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くに海があり閑静な住宅街の2階建ての家屋を改修した、家庭的な雰囲気が見られるグループホームである。法人の代表者は地域住民で、託老所指定介護支援事業所・通所介護事業所・訪問介護事業所が開設されている。地域とのつながりを大切にされ、運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。年2回実施される避難訓練や地域の防災訓練にも参加し、協力関係を築いている。代表者や職員は、理念を踏まえて、利用者一人ひとりのその人らしく生活できる支援を、地域との協力体制を構築しながら、認知症ケアの充実に努め取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年10月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこんまい「あんき」

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

前田 珠貴

評価完了日

平成 27 年 10 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日々の申し送りやホーム内での研修及び有限会社宅老所あんきの全体研修でも行っている。職員が運営理念に基づいた支援を実践している。	
			(外部評価) 法人の開設当初作られた理念を大切に継続している。理念は事業所内に掲示すると共に、入職時に理念の趣旨を説明し、共有するようにしている。職員は法人の全体研修会で、理念についての振り返りを行い、利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 垣生地区及び自治会の行事に参加し幼稚園の行事にも利用者さんや職員、家族等と一緒に参加している。(特に防災訓練等)	
			(外部評価) 法人の宅老所で、地域のボランティアと利用者の家族が、隔週でコミュニティーレストランやカフェを開催している。地域の方や利用者や家族とのコミュニティーの場になっており、利用者も積極的に社会参加を楽しんでいる。また、近隣の幼稚園を訪問して、園児と積極的に交流している。事業所の道路沿いの一部を、地域住民が気軽に立ち寄れるように開放し、利用者が地域の方との触れ合いを通して、暮らしを互いに支え合う関係が構築されている。地域の自治会に加入しており、敬老会や防災訓練等の行事に参加し、地域住民と積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域において認知症の理解を求めるため、運営推進会議やボランティアグループ(縁側プロジェクト)と合同主催によるセミナーの実施。地域の中のコミュニティーレストランをボランティアさんと一緒に開催している。(月4回)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 今年度は制度改正をテーマにして6回シリーズで実施する。防災訓練は町内と共に会議を行い、実施し、評価を共にやっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町内会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、縁側プロジェクト会員など多種多様な機関の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、法人の各部署からの報告を行うと共に、参加者からの活発な意見交換が行われている。議題には、年間テーマ「つながる」を設定し、外部講師による認知症ケアや介護保険制度の改正について勉強会を行い、参加者や地域住民の方に理解が得られるように情報を提供している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員は市が実施する研修に積極的に参加し、ホームで行う行事は案内を出し参加をしてもらう。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して、事業所の実情を把握すると共に、情報の提供や助言を行っている。また、介護報酬の変更の際や利用者の問題等で分からないこと、疑問点がある場合は、その都度相談を受けて協力関係を築いている。市が主催する研修会にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全員で身体拘束に対する研修を行い近隣の方々との交流を密にし、ホーム全体の雰囲気を近隣の方や家族の方と共に意見を聞き職員に周知している。</p> <p>(外部評価) 玄関は開放され、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は、身体拘束や虐待等、法人の全体研修会や外部研修に参加して理解を深めている。家族や近隣の方の訪問があり、地域住民に、縁側を開放して気軽に立ち寄れる環境は、「いつでも見られている」という職員の意識向上と、利用者の安全と自由な暮らしを支援し、身体拘束をしないケアにつながっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<b>(自己評価)</b> 施設内・外研修に職員全員が参加受講し虐待防止について正しく理解し実践している。また、近隣の方や家族の方と連携をとり意見を取り入れ、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 権利擁護に関する施設外研修を受けた職員が報告研修を実施し全職員に周知している。また、権利擁護について司法書士や社会福祉士等の情報を集め職員に徹底を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<b>(自己評価)</b> 契約時には十分な時間をとり、説明およびケアの内容や雰囲気を感じてもらい理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<b>(自己評価)</b> 日常生活の中で利用者さんとの会話から意見が聞けるように心がけている。家族やボランティアさんとの交流により職員に伝えにくいこと等は伝えやすいような雰囲気を作り、家族さんには意見箱を設置しているほか、家族の訪問時には意見等を話してもらえるよう心掛けている。 <b>(外部評価)</b> 利用者の多くは、近隣の地域から入居しており家族の面会も多い。面会の際に出された意見は、職員間で話し合い利用者のサービスの向上に活かしている。職員は、利用者や家族から気軽に思いや意見を話せるような環境づくりに努め、親密な関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスをケアマネージャー、代表、管理者、職員が意見を出し合う場を設け、提案されたことについては機会を設け反映している  (外部評価) 代表者と職員全員が参加して、毎月1回ケアカンファレンスを開催して、運営に関する意見を出し合っている。利用者に関する意見交換を行い、職員間で申し送りノートを使って、日常的に情報を共有している。管理者は、ユニットの夜勤をすることもあり、職員から個人的に意見を聞く機会になっている。また、外部研修にも積極的に参加できるように配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員間のコミュニケーションを図り、環境衛生についても外部講師や施設外研修にて職員全体の意識統一を図り、働きやすい環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ケアカンファレンスに基づき、利用者さんの状態把握を行い、それに伴うケアの実際の施設内・外研修を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所間の問題点を抽出し、他事業所との合同研修を実施したり、個々の職員間の連携を図り相互の事業所に訪問等実施している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人との信頼関係を構築するために家族や本人とのコミュニケーションを大切にし、本人の会話の中から不安なことや要望を聞き安心の確保に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族とのコミュニケーションを図り、相談時に十分な時間をとり相談内容から求められていることを受けとめている。内容によっては代表とも相談している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、情報提供し一緒に考える努力をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごしながら本人の趣味や生活歴、風習を考慮し、利用者間の支えあいを引き出しながら暮らしのなかで発揮してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 運営推進会議や行事等に参加してもらい、雰囲気を楽しんでもらい、時には本人の好物の差し入れ等により、家族と団欒の時間をとれるなど切れ目の無い関係を保っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴の中で馴染みの人や過去の仕事などを聞き、その場面や場所を確保しいきいきとした生活をしてもらうよう努力している。	
			(外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取っている。また、外泊時に馴染みの美容室へ家族が付き添い行っている利用者や、近所の美容室から訪問があり利用している利用者もいる。利用者と地域住民が馴染みの関係になっており、事業所の行事を通して、利用者の家族や地域住民との関わりの中で友達が増えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士の共通の話題や仕事、レクリエーションを通じお互いの関係が深まるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者さんや家族の思いを聞き取り、大切にしているものや思いを受けとめ、いつでも来てもらえるような声かけや雰囲気作りに努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で本人の会話や希望、家族からの意向や希望を聞き、ケアカンファレンス時に職員の意見も求めながらケアプランに反映している。  (外部評価) 利用者の話しをよく聴き丁寧に観察しながら、利用者のいつもと違う発言や面白い言葉を拾い付箋紙に記入し記録に残すなど、思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通困難な利用者に対して、表情やいつもと違う動きに注意し、思いを把握し支援している。利用者や家族の希望を継続できるよう申し送りを行い職員間で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り、生活歴の把握、生活の中で見えてきたことを本人や家族に再度聞き取り、馴染みの暮らしの継続に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の食事、入浴、排泄、バイタルによる基本的な情報把握を行い、時には家族や医療との連携を図りながら本人らしい暮らしの継続に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族や運営推進会議から意見を聞き、職員全員でカンファレンスを行い、それに基づき介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて介護計画を作成し、1か月毎にケアプラン会議を実施し、職員全員で話し合いモニタリング、計画の見直しを行っている。介護計画の実践状況は、申し送りノートや気づきノートに記録され、職員間で利用者一人ひとりの個別ケアの状況は共有されている。介護計画は家族の面会時に説明し、同意を得ている。	介護計画に沿った日々のケアは実践され、利用者の生活の充実に繋がり「気づきノート」に記録されている。個別ケアの実施内容を介護計画に連動した記録を行うことにより、目標達成状況やサービス内容の適切性や新たなニーズの把握ができ、より充実したモニタリングに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事や気付いたことは申し送りノートに記述し、全員が情報の共有を図り、ケアマネージャーや代表と共に介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外泊や外出、事業所主催の家族旅行等参加を呼びかけ実施している。また他事業所やボランティアさんとの交流を深め、多様な取り組みを実施している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通じて参加してもらったり、訓練事業や地区の行事や幼稚園との交流、地域と医療機関およびボランティアさんとの支えあいについて学習や行事を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人および家族の希望により、往診や訪問診療、その他医療 機関に同行し、家族への報告や同行を行なっている。  (外部評価) 月2回協力医院の医師が往診をしてくれる環境にあり、入居 時にかかりつけ医を協力医院の医師に変更を希望する利用者 が多い。法人内の看護師の協力体制も整っており、定期の往 診以外にも利用者の状態により往診を受けられるようになって いる。また、他の医療機関受診は、職員が付き添うように している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内での看護師や各医療機関の医師及び看護師と連携を とっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 馴染みの関係をきれないように職員が順次面会に行き、家族 との連携を図りながら必要に応じて各病院の医師及び看護師 に状態を聞き、退院時の支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から本人の希望、家族の気持ちを医師に伝え、職員全員 が情報の共有を図り状態の変化に応じて連携し、終末期であ ることを医師から家族につたえてもらい、家族、職員や看護 師で今後の在り方について密にカンファレンスを行い、家族 の意向を受け止め最後までその人らしく暮らせるように看 取っている。  (外部評価) 看取りに関する指針を整備し、協力医療体制は整っている。 入居時に看取りの意向を確認し、重度化した場合には、その 都度協力医の往診を受けて説明を行い、家族の同意を得てい る。看取りを経験することで得た気づきや、利用者との思い 出について振り返りや話し合いの機会を持ち、職員間で共有 しながら今後の支援に役立てられるよう勉強会を行い、職員 の不安を軽減できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、マニュアル通りの訓練をしている。救急法、応急手当等の施設外研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 町内の防災訓練や、自施設主催の防災訓練、避難訓練を実施し、災害時における避難の仕方についても町内の方々に協力をお願いするとともに、入所者の顔を覚えてもらい緊急時には協力して頂ける体制をとっている。  (外部評価) 年2回の避難訓練を実施している。訓練には地域住民も参加し消防署への通報の訓練等を行っている。また、地域の災害訓練にも利用者や職員が参加して、利用者の状態に応じた避難ができる協力体制を築いている。また、緊急連絡網の整備を行い訓練を実施しており、災害時の備蓄品の整備もできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声かけや昔の馴染みのある呼び方で対応している（家族にも確認している）。記録は厳重に保管している。  (外部評価) 写真の掲載に関しては、家族に個人情報使用の同意を得ている。利用者との会話は、声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付け、自然で人格を尊重したケアを大切にすることで、利用者は穏やかな笑顔で過ごしている。また、記録類は管理スペースに保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できる方については本人の意思や家族の意思を尊重し、その人に合ったケアを行っている。本人が自己決定できにくい方については家族と共に考え支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんと共に一日の過ごし方、外出や何か食べたいものがあるか話し合えるような雰囲気作りのなかから利用者さん優先で楽しくすごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室に行きたい人は希望する美容室に行ってもらったり、家族と共に外出時に衣服の購入等をしてもらう。時には毛染めやマニキュア等も行う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合った食形態に配慮しながら夜勤者が下ごしらえをして日勤者と利用者さんと共に役割分担をして無理のない範囲で調理や配膳、後片付けを職員と一緒にしている。時には出身地域の郷土料理等も交えながら外食の機会も多くとっている。	
			(外部評価) 利用者の希望を聞きながら毎日の献立を考え、事業所のキッチンで調理している。新鮮な魚や野菜等食材の調達状況で、メニューを変更する時もある。利用者の状態に合わせて、食事準備の補助等が継続できるよう支援しながら、職員と一緒に調理や配膳や片付けを行っている。また、利用者の嚥下状態に応じた食事形態の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 昔ながらの食材にこだわり、昔食べていた物を継続して食べて頂けるよう努めると共に、食事量の把握と記録をし職員間での情報共有を行い、十分に水分摂取できるよう工夫を重ねている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者さんの希望により、毎食後は必ずしも歯磨きをしていない人もいるが、入浴時には個々の入念な歯磨きと口腔ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを職員間での情報の共有をし、紙パンツを使用している方であっても、定期誘導はもとより布パンツを使用してみたりと工夫を重ねている。日中においては、トイレ誘導を習慣にしている。</p> <p>(外部評価) 職員の声かけや誘導により、日中すべての利用者がトイレで排泄を行っている。布パンツでの生活を考えて、紙パンツの使用者へも自立に向けた取組みに積極的であり、利用者の状態に応じて、夜間は鈴を用いてトイレ誘導を行い、移動が安全にできるように支援している。また、夜間のみポータブルトイレを使用するなどして、利用者一人ひとりに合った排泄の支援が行われている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘についての外部研修及び看護師OBにケースごとのアドバイスにより、排泄のメカニズムを学び、食材、水分の量や適度な運動に配慮している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) お湯の温度、入浴時間、一人ひとりの健康チェックを行いながら本人の希望に配慮し毎日入浴を行っている。</p> <p>(外部評価) 入浴は毎日入れるようになっており、利用者の一日の生活の中で空いている時間を見計らって、入浴できるように支援している。また、身体状態に合わせて数名の職員が介助することもある。入浴剤を使用したり、利用者が入浴を楽しめるような工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりの一日のリズムに合わせたお昼寝や庭での日光浴及び散歩等を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服薬管理を行い薬の効能、効果、副作用、使用上の注意等を添付し、ケアカンファレンスにて職員全員に周知している。病態の変化に合わせて各医療機関との連携を密に行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の得意としていることを日々の生活の中に取り入れ、外食やドライブ、家族旅行等、本人が希望する支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 俳句や習字、外食やドライブ、またあんき主催の家族との思い出旅行等実施している。町内の遠足にも希望する利用者さんと一緒に参加している。  (外部評価) 家族の協力のもと温泉等に外出しており、家族が都合が悪い場合は、職員が同行することもある。また、町内の遠足に家族や職員も一緒に出かけたり、近隣の海岸で海を見ながら食事や遠足のドライブを楽しんで帰ることもある。法人の行事で毎週外出したり、法人主催の家族との思い出旅行を行うなど、利用者と家族の絆を大切に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外食時や縁側プロジェクト（おばさん料理）にはそれぞれの好物やメニューを楽しんでもらってる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からかかってくる電話に本人が対応し楽しく話してもらったり、状況をお知らせして安心してもらっている。手紙やはがきが届いたときには本人に手渡し一緒に読んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や馴染みの置物など心地よく過ごせるような設えに工夫している。  (外部評価) 玄関は引き戸で、片側は車いす用のスロープがあり、手すりをつけられ安全な配慮がある。利用者はオープンキッチンの食卓や居間のソファや畳スペースなど、思い思いの場所でくつろぐことができる。冬には薪ストーブと床暖房で暖を取り、夏には家の中を心地よい風がぬけ涼しい環境である。壁には利用者の作品の書画が展示され、季節の花が飾られ、家庭的な温もりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を育てたり、庭の見える廊下やウッドデッキにイス等を置き、くつろげる空間を提供している。（時々近所の方も招待する。）	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に本人と家族が相談して馴染みの家具や品物を持ってきてもらってる。  (外部評価) 居室は、和室の続き間を襖で仕切り、欄間のある居室もある。自宅で愛用していたタンス、机、椅子等を持ち込むことにより、個性のある個室となっている。また、ベッドを設置しているが、利用者の希望や状態に応じて、布団やエアマットを使用しており、利用者が居心地よく過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) それぞれの身体機能に応じた生活リハビリを取り入れ、体力の維持向上に努めている。庭を活用し野菜や草花を作り生きがいを感じ人の役に立つことの喜びを感じる自立支援を行っている。	